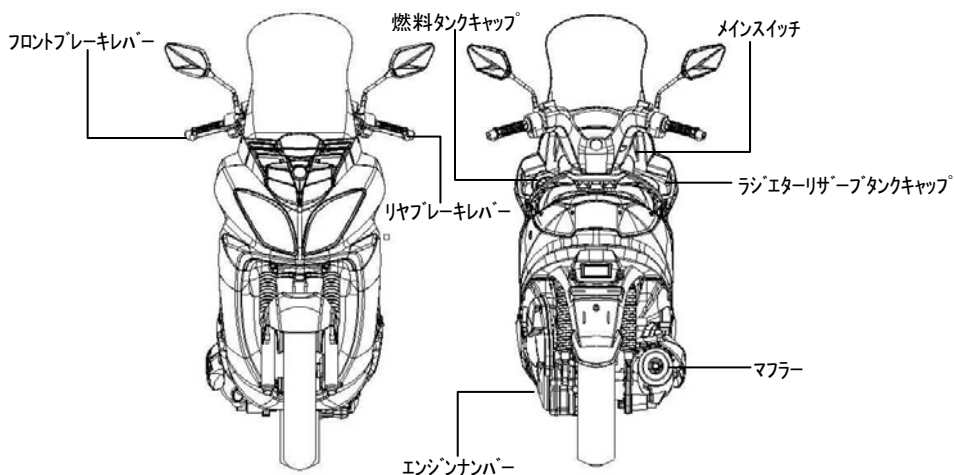
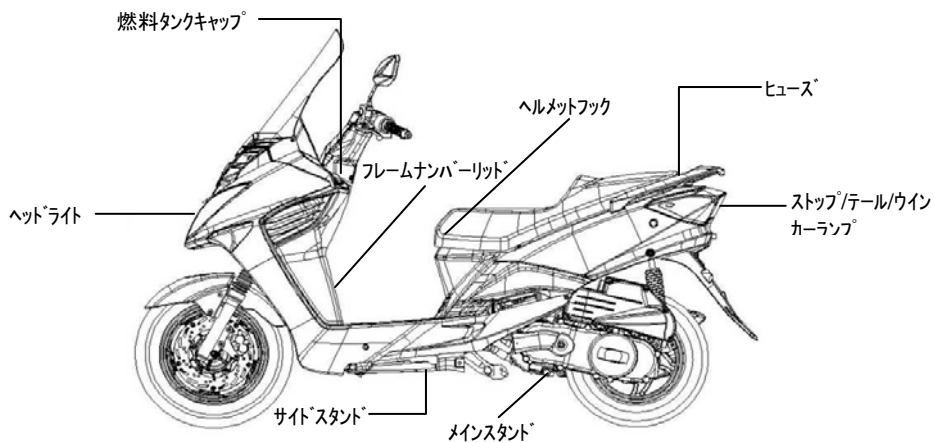
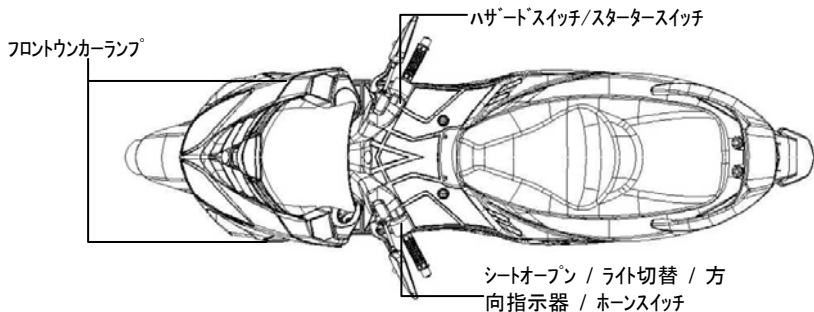


1. 内容	1
2. SYM車の保証	3
3. メンテナンスレコード	4
定期点検整備の記録	4
その他 臨時整備の実施記録	5
油脂液類・消耗品の交換記録	6
SYMからのおすすめ点検整備記録	9
4. コントロールロケーション	10
5. ご乗車の前に	11
6. 安全運転	11
7. ドライビング	12
8. 純正スペアパーツの使用	12
9. 各種機能の使い方	13
メーター	13
イグニッションスイッチの操作	15
各種スイッチの使い方	15
シートロック	17
ラゲッジボックス	17
防盜スイッチ	17
ガソリンタンクキャップ	18
ブレーキ	18
10. エンジン始動要領と注意事項	19
11. 正しい走り方	20
スロットルコントロール	20
車輛の停車及び駐車	20

12. 乗車前の点検とメンテナンス	21
日常の点検	21
エンジンオイルの点検と交換	21
ガソリンの点検	22
ギヤオイルの点検	22
ブレーキの遊び点検	22
ディスクブレーキの点検	23
スロットルの遊び点検	24
バッテリーの点検とメンテナンス	25
タイヤの点検	26
フロントサスペンションの点検	26
ヒューズの点検と交換	27
方向指示器とホーンの点検	27
ヘッドライト及びびりヤライトの点検	28
ブレーキライトの点検	28
ガソリン漏れの点検	28
車体各部の潤滑系機構の点検	28
スパークプラグの点検	28
冷却機構の点検	28
冷却液の交換・補充	29
寒冷地での不凍液濃度表	29
エアクリーナーの点検	30
13. こんなときは	31
エンジンが始動しないとき	31
14. ガソリンについて	32
15. トランスミッションオイル	32
16. 運転時の注意	32
17. 定期メンテナンススケジュール	33
18. 諸元表	34



このマニュアルでは、スクーターの正しい使い方とともに安全走行、簡単な点検方法などをご紹介します。より快適で安全な走行のためにも車輛の取扱いに慣れた方も独自の装備や取扱いがありますので、必ずこの取扱説明書をお読み下さい。

お買い上げの時にはこの説明書をもとに以下の事について SYM 特約店より説明をお受け下さい。

- 正しいスクーターの使い方
- 乗車前の点検とメンテナンス
- 保証内容及び保証期間

ご愛用を感謝いたします！

お客様のスクーターの性能を最大限に活かすために、定期点検及びメンテナンスは必ず行って下さい。新車の場合、最初の 300km 走行時にお買い上げの SYM 特約店に車輛をお持込のうえ、初期点検をお受け下さい。その後は、走行 1000km 毎に定期点検を SYM 特約店で行って下さい。

- 車輛の仕様、その他の変更により、このマニュアルの内容と実車が一致しない場合がございます。ご了承下さいますようお願い申し上げます。

6. 安全運転

走行時はリラックスして、運転に適切な服装であることが大変重要です。交通ルールを守り、正しく運転しましょう。一般に多くの人は新車購入時はとても慎重に運転されますが、慣れてくると無謀な運転をしがちになり、事故やトラブルを引き起こしやすくなりますので注意しましょう。

忘れないで下さい！

- 乗車時はヘルメットを必ず着用して下さい。また、あご紐はしっかりと締めて正しくかぶりましょう。
- 裾の広いズボンや袖口の広いジャケットの着用はブレーキ操作など、運転操作の邪魔になり、思わぬ事故の原因にもなりますので避けて下さい。
- 袖口のびったりした服装を心がけて下さい。
- 走行時にはハンドルを両手で握って下さい。絶対に片手運転はしないで下さい。
- 制限速度は必ず守って下さい。
- かかとが低く、くるぶしまで覆う靴を着用して下さい。
- スケジュールに従って定期点検とメンテナンスを必ず行って下さい。点検、メンテナンスをしていない場合は保証修理対象外になりますので、ご注意ください。

警告!!


- 後部シートに人を乗せる場合、マフラーでヤケドをしないように必ず後部乗員がペダルに足を置くことを確認してください。
- 二人乗りをする場合は左側から乗車し、火傷を防止するために必ずステップの上に足を置いてください。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。点検やメンテナンスを行う時はヤケドをしないようにくれぐれも注意して下さい。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。他の人がマフラーでヤケドをしないように車輛を駐車する場所にも充分注意を払いましょう。


ご注意:

スクーターの改造はその構造や性能に悪影響を与え、寿命が短くなる恐れがあります。また、保安基準に適合しなくなるような改造は絶対におやめ下さい。改造車輛は保証修理の対象外になりますので、ご注意ください。

走行にあたっては身体の使用箇所、すなわち腕、手のひら、腰やつま先を常にリラックスさせ、一番楽な姿勢で乗るようにしましょう。必要な時に素早く反応できるように常に心がけて乗りましょう。

- 運転者の姿勢は安全走行に大きく関係します。常に身体の重心がシートの真ん中にあるようにして下さい。もし、身体の重心がシート後部にあると前輪への負荷が減り、ハンドルが取られるようになります。不安定なハンドルでの二輪車走行は大変危険です。
- ターンする時は運転者が身体をターンする方向に傾けるとよりターンしやすくなります。反対に運転者が身体と車輻を傾けないと運転者は不安定に感じます。
- でこぼこ道、未舗装道路での二輪車の操作は難しいので、事前に道路状態を察知するようにして下さい。そしてスピードを落として、ハンドル操作は肩の力を抜いて走行しましょう。
- **お願い:** 不用意にステップフロアの上に物を置かないで下さい。安全走行の妨げにもなりますし、ハンドル操作にも影響します。

 **ご注意:**
荷物を積むと、積まない時に比べてハンドルの感覚が変化しますから注意しましょう。積み過ぎるとハンドルがとられて運転を誤ることがありますので、積み過ぎに注意しましょう。

 **ご注意:**

- 布などの燃えやすい物をボディカバーとエンジンの間に置いたりしないで下さい。車輻火災の原因になります。
- 指定場所以外に荷物を載せないで下さい。車輻を傷めます。

ワンポイントアドバイス

慣らしはスクーターのパフォーマンスを活かし、寿命を延ばします:
最初の1ヵ月、1000km はエンジンや構成部品の慣らし期間です。
急加速や全開走行は避けて、60km/h に抑えて走行して下さい。

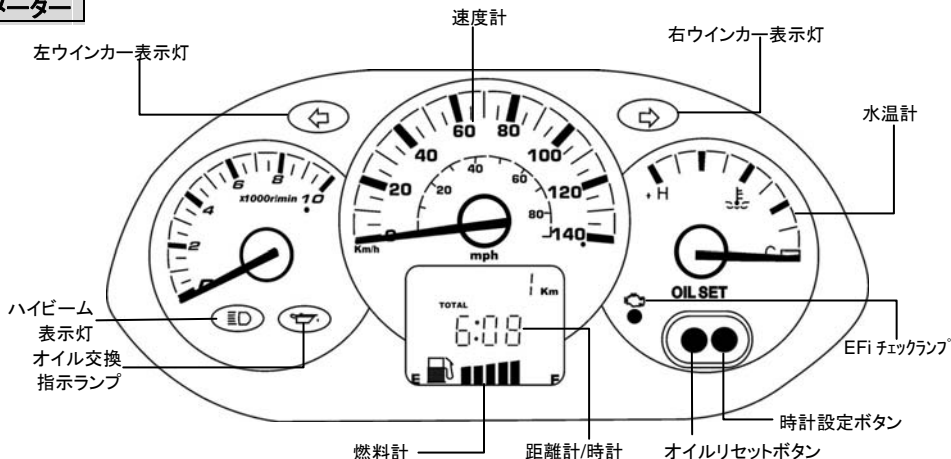
8. 純正スペアパーツの使用

二輪車の最高の性能を維持する為に各パーツの品質、素材、精密性はももとの設計が要求するものに適合する必要があります。“**SYM 純正パーツ**”はお乗りいただいている車輻と同品質の素材が使われています。高度な技術と厳格な品質管理を通して生産される“**SYM 純正パーツ**”を“**SYM 特約店**”からご購入下さい。廉価品や共用パーツを使用された場合はメーカー保証の対象とはなりません。またトラブルの原因や二輪車の性能を低下させる恐れがあります。

- あなたの二輪車を安全快適に保ち、より長く使用できるように **SYM 純正スペアパーツ** を使用しましょう。

(以下の説明は SYM RV125i/RV200i シリーズの基本操作です。各モデル仕様により異なる場合もございます)

メーター



⚠️ ご注意：

- エンジン始動中にバッテリー端子を外すと、電子部品にダメージを与える恐れがありますのでご注意ください。
- プラスチック部品(メーターレンズ、ヘッドライトレンズ、ウインカーレンズなど)をガソリンなどの有機溶剤で拭かないで下さい。変色や変形を起こす恐れがあります。

● **スピードメーター**：

走行中の速度をキロメーターとマイルで表示します (外側が Km/h, 内側が MPH).

● **オドメーター**：

スクーターの総走行距離を表示します。

● **ハイビーム表示灯(ブルー)**：

ヘッドライトをハイビームにした時に表示されます。

● **ウインカー表示灯(グリーン)**：

ウインカーを操作した時に右、または左の表示方向を点滅して表示します。

● **燃料計**：

メインスイッチが“OFF”位置にある時には表示をしません。

メインスイッチを“ON”位置にすると現在のタンク内の燃料残量を表示します。“E”位置に近づきましたら早めに燃料を給油して下さい。

水温計

エンジン冷却水の温度を表示します。

エンジン回転中は、指針が目盛の赤部分より低い温度になるのが正常です。

指針が赤い目盛部分を指した時は、オーバーヒートのおそれがありますので、ただちに安全な場所に停車して、エンジンを冷まして下さい。

ご注意:

長時間にわたって高温下でエンジンを回し続けると水温計は(H)を指示します。この場合、ただちにエンジンを停止してエンジンを冷やして下さい。オーバーヒートさせた場合、エンジンを傷める恐れがございます。

• 機能の設定

説明書のイラストのように二つのボタンがあります。:

1. SET ボタン :

- a. 通常の表示をしている時に SET ボタンを押すと TOTAL と TRIP の表示が切り替わります。
- b. TRIP 表示の時に SET ボタンを2秒以上長押しすると、TRIP がリセットされます。
- c. ODO 表示の時に SET ボタンを2秒以上長押しして、時刻調整モードにします。まず、時間の単位が点滅している時に SET ボタンを押すと単位が一つずつ上がります。次に分の十の位を調整するために SET ボタンを2秒以上長押しして下さい。点滅が分の十の位に移動しましたら SET ボタンを押して調整して下さい。さらにもう一度 SET ボタンを2秒以上押しして分の一の位を調整します。時刻合わせが終了しましたら、SET ボタンを最後に2秒以上長押しすると、点滅表示が点灯表示になりますので、点灯表示になりましたら設定完了です。

2. OIL ボタン :

- a. オイル警告灯は1,000 km 毎にオイル交換時期を表示します。1,000にインジケーターが点灯した時はオイルを点検、交換してからオイルリセットボタンを2秒以上長押ししてリセットして下さい。

イグニッションスイッチの操作

ON "スタート" 位置

- この位置でエンジンは始動できます。
- キーは抜き取る事はできません。

OFF "ストップ" 位置

- エンジンをかけない時、エンジンを止める時に使います。
- キーは抜き取る事が出来ます。

LOCK "ハンドルロック" 位置

- ハンドルを一杯まできり、キーを押して左に回して"ロック"位置までキーを回すとロックされます。キーは必ず抜いて下さい。
- この位置ではハンドルがロックされます。
- ハンドルロックを解除する時は"ロック" から "OFF"に回して下さい。

"タンクキャップオープン" 位置

- 開ける時：キーを差し込んで左に回すとタンクキャップが開きます。
- 閉める時：タンクキャップを押して"カチッ"と音がすると閉まります。

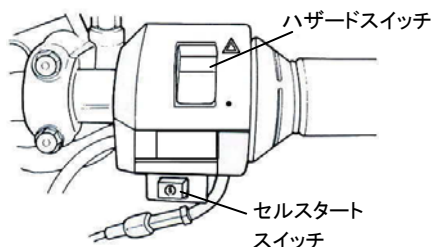
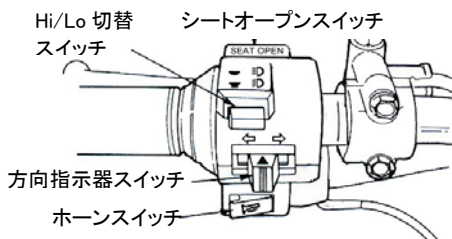
イグニッションスイッチ




ご注意:


- 車両が走行している時はイグニッションスイッチを決して操作しないで下さい。イグニッションスイッチを"OFF"や"LOCK,"位置にする事は電気システムを閉ざし、事故につながる恐れがあります。車両が完全に停止したのちにイグニッションスイッチを"OFF"するようにして下さい。
- 車両から離れる時はハンドルロックをして、キーは必ず取外すようにして下さい。
- エンジン停止状態でイグニッションスイッチを長い間"ON"位置にしておきますと、バッテリー電圧が低下します。このような状態になりますとエンジンの始動性に影響を与える恐れがありますので、ご注意下さい。

スイッチの使い方



-  メインスイッチが “ON” の位置にある時にこのスイッチを押すと、左右のウインカーを同時に点滅させる事ができます。交通が頻繁な場所での停車や車輛故障の場合に使用して下さい。

セルスタートスイッチ


-  セルモーターでエンジンを始動する時にこのスイッチを使用します。
メインスイッチを“ON”位置にし、メインスタンドを使用して前輪又は後輪ブレーキをかけた状態でスイッチを押します。

ご注意:

- 始動後はすぐにスイッチから手を離して下さい。セルモーターを回し続けると故障の原因になります。
- 前輪か後輪のブレーキをかけていないとエンジンが始動しない安全機構になっています。
- エンジンを始動する時はウインカーなどの電気スイッチは”OFF“にしてから行って下さい。


Hi /Lo 切替スイッチ

このスイッチはライトの向きを切替えます。Hi/Lo を切り替える時にはこのスイッチを押して下さい。


 Hi ビーム

 Lo ビーム (市街地、すれ違い時は Lo ビームをご使用下さい)

シートオープンスイッチ

 SEAT OPEN メインスイッチが “ON” 位置の時にこのスイッチを押すとシートロックが解除されます。
開錠後はスイッチから手を離して下さい。

ホーンスイッチ

 メインスイッチが “ON” 位置にある時、このスイッチを押すとホーンが鳴ります。

ご注意:

むやみにホーンを鳴らさないで下さい。

方向指示器スイッチ

方向指示器は左右折時や進路変更をする時に使用します。
メインスイッチを“ON”位置にして、スイッチを右、または左にスライドさせると方向指示器が点滅します。
解除する時はスイッチを押すと点滅が消灯します。



右方向のランプを点滅させ、右に曲がることを表示します。



左方向のランプを点滅させ、左に曲がることを表示します。

コンビニフック

- 荷物を掛けておくことができます。



ご注意:

- 運転の妨げになるものを掛けしないで下さい。制限荷重は 3kg までです。

シートロック

- **開錠方法: キーを使用**

左ボディカバーにあるシート解除キー穴にキーを差込、回すと開錠できます。

- **開錠方法: スイッチを使用**

メインスイッチを“ON”位置にしてシートオープンスイッチを押すと開錠できます。

- **施錠:**

シートを押し下げて確実にロックして下さい。
シートロックをした後は、シートを軽く持ち上げてみてしっかりシートロックがされているかを確認して下さい。



ご注意:

- キーをトランクボックス内に置かないようにして下さい。シートが勝手に閉まってシートロックされてしまうとキーが取れなくなります。
- シートロックした後はキーを抜き取ることを忘れないで下さい。

トランクボックス



- シート下にトランクボックスがあります。
- 最大積載重量は 10kg までです。
- 貴重品は入れないで下さい。
- シートをロックした後は、ロックが確実にされているか必ず確認して下さい。
- 水濡れを避けるために洗車をする前には荷物を取り出してから行って下さい。
- エンジンの熱で温度が上がりますので、熱に弱い物はこの中に入れしないで下さい。

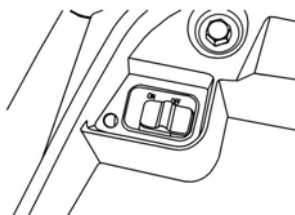


ご注意:

鍵の閉じ込みを防ぐために、シートをロックする前にキーを手にとって置き忘れが無いことを確認して下さい。

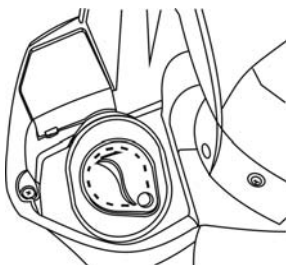
エンジンコントロールスイッチ

- このスイッチはトランクボックス内にあります。
- スイッチを“ON” or “” にセットするとエンジンは始動出来なくなります。
- 始動する時はスイッチを“OFF” or “” にして下さい。
- スイッチをセットした後はシートを必ずロックして下さい。



ガソリントankキャップ

1. メインスイッチにキーを挿入し、左に回してください。
ロックが解除されタンクキャップが開きます。
2. 給油時は上限を超えて給油しないで下さい。
3. タンクキャップを右に回しながら”カチッ”と音がしてキャップがロックされるまで押し付けて下さい。

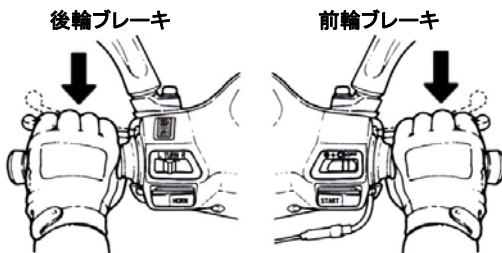


⚠️ ご注意:

- メインスタンドで駐車して車両が安定している事を確認し、給油時はエンジンを必ず停止して下さい。燃料給油時は火気厳禁です。
- 給油時は上限を超えて給油しないで下さい。また勢いよく入れると吹き返しを起こし、こぼれたガソリンでボディの塗装や樹脂部品にダメージを与えたり、火災を起こす恐れがあります。
- 給油後はキャップが確実に閉まっているか確認して下さい。

ブレーキ

- 不必要な急ブレーキは避けて下さい。
- ブレーキをかける時は前輪・後輪を同時に使い、バランスよくブレーキを使って下さい。
- 長時間連続してブレーキをかける事は避けて下さい。ブレーキが加熱し、制動効果が低下します。
- 雨の日や滑りやすい道路での走行時は、スピードを十分に落としてから早めにブレーキをかけて下さい。また、横滑りや転倒しないように、急ブレーキは絶対にかけないで下さい。
- フロントブレーキだけ、リアブレーキだけかける事は二輪車の性格上、片側に引っ張られ転倒しやすくなります。片側だけのブレーキ使用はお止め下さい。



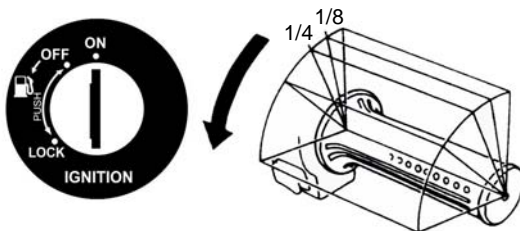
〈エンジンブレーキ〉

スロットルグリップを元の位置に戻して、エンジンブレーキを効かせて下さい。
長距離走行時や、急な坂などではエンジンブレーキとハンドブレーキを併用して下さい。

⚠ ご注意:

- エンジン始動前に必ずエンジンオイルと燃料が充分にあるか、チェックして下さい。
- メインスタンドを使用し、車輻が安定した状態でエンジンを始動して下さい。車輻が突然動き出すこともございますので、リヤブレーキもかける事を忘れないで下さい。

- 1.メインスイッチを“ON” 位置まで回して下さい。
- 2.リヤブレーキをかけて下さい。
- 3.スロットルを回さずにブレーキをかけた状態でセルスイッチを押して下さい。
- 4.エンジンが冷えている時はしばらく暖機運転をして下さい。



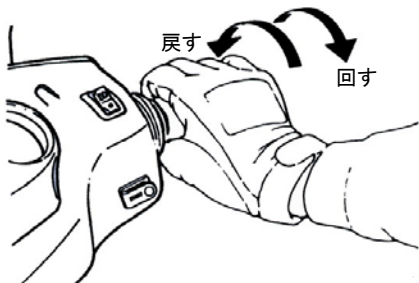
[ご注意下さい! 動き出すまでリヤブレーキをかけたままにして下さい]

⚠ ご注意:

- スターターモーターを3~5秒回してもエンジンが始動しない場合、スロットルグリップを1/8~1/4ほど回してスタータースイッチを押して下さい。
- スターターモーターの破損を避けるために、15秒以上連続してスタータースイッチを押し続けしないで下さい。
- スターターモーターを15秒回してもエンジンが始動しない場合は、10秒経ってから再度エンジンを始動して下さい。
- 長い間エンジンをかけていなかった車輻や、ガソリンが空のまままで給油したばかりの車輻はさらに始動しにくいです。スターターを何回も回す必要がありますが、スロットルは回さずにエンジンを始動して下さい。
- エンジンが冷えている時はエンジンが温まるまで数分かかります。
- 排気ガスには有害物質 (CO)が含まれています。よく換気のきいた所でエンジンを始動させて下さい。

- スタート前に方向指示器で合図を出し、後方の安全をよく確認してからスタートしましょう。

スロットルバルブコントロール



回す: 速度が速くなります。ゆっくり回しましょう。
登り坂ではさらに回して力をつけましょう。

戻す: 速度を下げます。

停車する時

- 止まる地点が近づいたら:
 1. 早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車輻に注意して徐々に左に寄りましょう。
 2. スロットルを元の位置に戻して早めにブレーキをかけて下さい。(後方の車輻に注意を促すためにもブレーキランプを点灯させて下さい)
- 車輻が止まったら:
 3. 方向指示器を元の位置に戻して、メインスイッチを“OFF”位置まで回してエンジンを止めて下さい。
 4. エンジンが完全に止まってから車輻左側より降りて下さい。交通の妨げにならない所で水平な場所を選び、メインスタンドで駐車して下さい。
 5. 左手でハンドルを持ち、右手でグリップを掴んで下さい。右足でメインスタンド左端部を踏み、車輻を後方に引き上げるような感じでメインスタンドをかけて下さい。
 6. メインスタンドがしっかり接地しているか確認して下さい。

忘れないで下さい: 車輻盗難防止のため、車輻停止後ハンドルロックをして、キーを必ず抜いて下さい。

⚠️ ご注意:

- 交通の妨げにならない、安全な場所に駐車するようにして下さい。
- サイドスタンドの使用は平坦では無い所や、一時的な停車時だけの使用にし、安定性向上のためにハンドルを左にいっぱい切った状態で使用して下さい。
- サイドスタンドでの駐車後はエンジンを始動する前にサイドスタンドを上げて下さい。思わぬ事故の原因となります。

日常の点検

チェック項目		チェックポイント
エンジンオイル		エンジンオイル量は充分ですか？
ガソリン		量は充分ありますか？（無鉛レギュラーガソリンに限る）
ブレーキ	前輪	ブレーキング状態は？ （ブレーキレバーの遊び：10~20mm）
	後輪	ブレーキング状態は？ （ブレーキレバーの遊び：10~20mm）
タイヤ	前輪	空気圧は正常ですか？ （標準：1.75kg/cm ² ）
	後輪	空気圧は正常ですか？ （標準：2.25 kg/cm ² 1人乗車時, 2.5 kg/cm ² 2人乗車時）
ステアリングハンドル		ハンドルが異常に振動する。あるいは動かすのが重くないですか？
メーター、ライト、バックミラー		正しく作動しますか？ ライトは点灯しますか？ 後方ははっきり確認できますか？
車体各部の締め付け状態		ボルト、ナットに緩みはありませんか？
異常のあった箇所		以前のトラブルは直っていますか？

⚠️ ご注意:

- 日常の点検で何か問題が見つかった場合はすぐに修理をして下さい。必要な場合はお買い求めの SYM 特約店か又はお近くの SYM 特約店に車輛をお持ちいただき、修理を依頼して下さい。

エンジンオイルの点検と交換

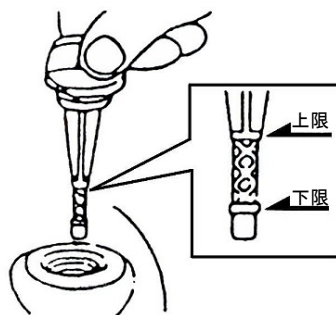
点検:

1. メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車輛を置いて下さい。エンジンを止めてから 3~5 分後にレベルゲージを抜いて、オイルを拭取った後に再度入れて計測して下さい。（回転はさせない）
2. レベルゲージを抜き取り、オイルレベルが上限と下限の間にあるかどうか確認して下さい。

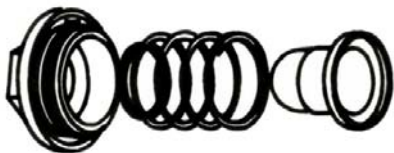
オイルレベルが下限より下の場合は上限まで補充して下さい（シリンダー、クランクケース等のオイル漏れを確認して下さい）

オイル交換:

- 最初の 300km 走行時にエンジンオイルは交換して下さい。以降 3,000km 毎にオイル交換をして下さい。オイルフィルターは最初の 300km 走行時に清掃して、以降 6,000km 毎に清掃して下さい。
- エンジンパフォーマンスを最大限に維持する為にも、エンジンオイル量は 500km 毎にチェックして、エンジンオイル量が不足している時は上限までオイルを補充して下さい。
- エンジンオイル：API SH, SAE 10W-30 グレード以上の物をご使用下さい。低グレード、低品質オイルをご使用の場合はメーカー保証の対象にはなりませんので、ご注意下さい。



- オイル容量：1.0 ℓ（交換時容量 0.8 ℓ）
- オイルフィルター交換時：0.8 ℓ



【オイルフィルター清掃】

オイルフィルターナットキャップ^①を取外して、オイルフィルターを取り出します。ガソリン又はエアージェットを使ってきれいに清掃してから取付けて下さい。



警告:

- 車輛が平坦でない所に止められた時や、エンジンを止めてすぐにオイル量を点検しても、正しいオイルレベルは確認できません。
- エンジンを止めてすぐはエンジンもマフラーも熱くなっています。エンジンオイルの点検や交換時はヤケドをしないように特に注意して下さい。

ガソリンの点検

- メインスイッチを"ON"位置にして、燃料計によりガソリンが充分にあるかどうかチェックして下さい。
- この車輛は無鉛レギュラー(オクタン価 90 以上)を使用する前提で製造されています。
- 給油の際はメインスタンドで安定した場所に車輛を止め、エンジンを止めて火気の無い状態で給油して下さい。
- 給油時は、上限を超えて給油しないで下さい。
- ガソリン給油口のフタがしっかり閉まっているか確認して下さい。
- ガソリンにエタノールが 10%以上含有されているものは使う事は出来ません。

トランスミッションオイルの点検と交換

点検:

- 水平で安定した場所にメインスタンドを使用して車両を止めます。エンジンを止めてから 3~5 分待って下さい。トランスミッションオイルインフュージョンボルトを外し、ドレンボルトの下に計量グラスを置いてからドレンボルトを外して下さい。出てきたオイル量を計量してオイル量の点検をして下さい。(全容量: 110 cc. / 交換時: 90~100 cc.).

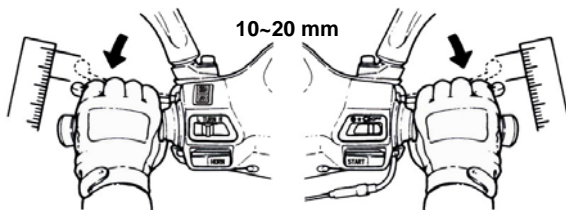
オイル交換:

- エンジンを止め、メインスタンドを使用して水平で安定した場所に車輛を止めて下さい。インフュージョンボルトとドレンボルトを外してオイルを抜取って下さい。
 - ドレンボルトを戻し、しっかりと締めて下さい。新しいミッションオイル(90~100 cc.)を入れて下さい。インフュージョンボルトを戻し、しっかりと締めて下さい。(ボルトが確実に締まっているか、オイル漏れが無いかを確認して下さい)
- ※推奨オイル: SYM 純正 HYPOID GEAR OIL (SAE 85W-140).
 ※外気温度が 0°Cになる地域では SAE85-90 をお使い下さい。

ブレーキの遊びの点検

点検: (ブレーキレバーの遊びの点検はエンジンを止めてから行って下さい)

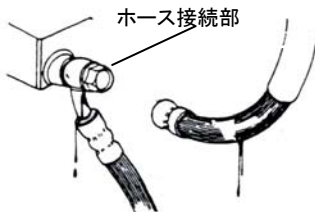
- 前後輪のブレーキレバーの遊び
前後輪のブレーキを点検する時は、遊び(ブレーキレバーを握ってからブレーキが効き始めるまでのストローク)は 10~20mm です。力いっぱいブレーキレバーを握った時にやわらかく、ふわふわする感じの場合は異常です。



ディスクブレーキの点検（ディスクブレーキ装備車に適用）

（漏れ、損傷、緩みの点検）

- 目視にてブレーキオイルの漏れ、損傷を確認して下さい。レンチ等の工具によりブレーキラインの接続部に緩みが無いかを確認して下さい。ハンドルの振動が無いか、ブレーキラインの損傷を起こしそうな部分をチェックして下さい。万一異常があれば車輛をSYM特約店にお持込になり、修理を依頼して下さい。



⚠️ ご注意:

- お客様の車輛が最適の状態、安全に走行できるかを確かめる為に、安全な乾燥路面でゆっくりと車輛を走らせて前後輪ブレーキを操作してみて、不具合が無いか確認して下さい。

(ブレーキパッドの点検)

- ブレーキキャリパーのすきまからブレーキパッドを点検して下さい。ブレーキパッドの使用限界部分がディスクローターに当たっている場合はブレーキパッドを交換して下さい。

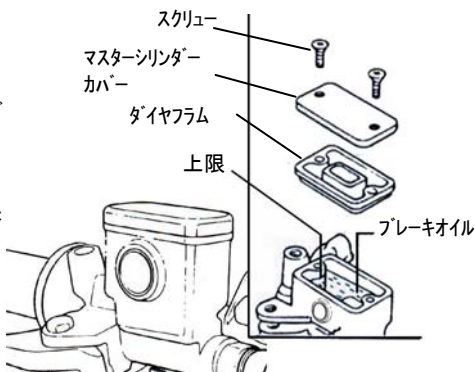
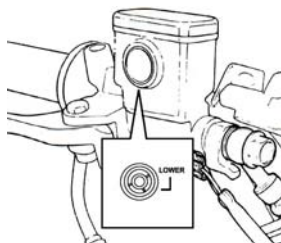


(ブレーキオイルの補充)

1. スクリューを緩め、マスターシリンダーカバーを外して下さい。
2. リザーバー周りの異物や汚れを拭取って下さい。リザーバーの中に異物が入らないように慎重に行ってください。
3. ダイアフラムを外して下さい。
4. ブレーキオイルを上限まで補充して下さい。
5. ダイアフラムを取付けて、マスターシリンダーカバーを付けて下さい。(ダイアフラムの向きに注意して下さい)
6. リザーバー内に異物が入らないように注意しながら、マスターシリンダーカバーをしっかり締めて下さい。

(ブレーキリザーバーの油量点検)

- 車輛を安定した場所に止めて、オイルレベルが"LOWER"マークを下回っていないか点検して下さい。
- 使用オイル: BRAKE OIL (DOT 3).

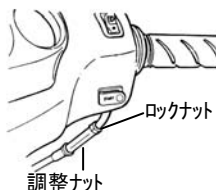
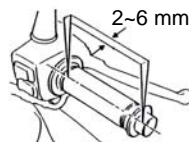


⚠️ ご注意:

- 異なるブレーキオイルを混ぜて使用しないで下さい。変質したり、ブレーキ装置の故障原因になる事があります。
- ブレーキオイルを補充する時は上限を超えて補充しないで下さい。車輛塗装を傷めるので塗装部分やプラスチック部にオイルが付着しないようにして下さい。

スロットルバルブクリアランスの調整

- 2-6mmの遊びでクリアランス調整をして下さい。
- ロックナットを緩めて、調整ナットを回して調整して下さい。調整後はロックナットを確実に締めて下さい。



点検項目:

1. スロットルが閉じた状態から開いた状態までスムーズに動くかケーブルをよく確認して下さい。
2. スロットルケーブルが邪魔していないか、ハンドルを左右に動かして確認して下さい。
3. スロットルケーブルが干渉したりしていないかよく確認して下さい。

バッテリーの点検とメンテナンス

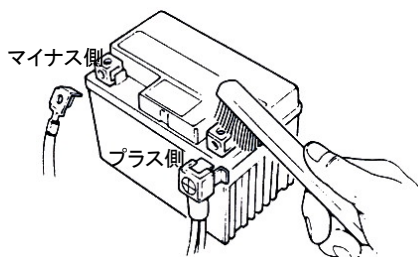
- この車輻には補水不要のメンテナンスフリータイプのバッテリーを装備しています。万一異常があった場合はSYM特約店にご相談下さい。

(バッテリーターミナル清掃)

バッテリーを取外し、ターミナルの汚れ、腐食を清掃して下さい。

バッテリー取外し手順:

メインスイッチを“OFF”にして、先にマイナス側ケーブルを外し、それからプラス側ケーブルを外します。



⚠️ ご注意:

- バッテリー端子が腐食していたり、白い粉が付着している場合はぬるま湯で端子を清掃します。
- 端子の腐食が激しい時はケーブルを外し、金ブラシかサンドペーパーで清掃して下さい。
- 清掃後は端子に薄くグリスを塗り、バッテリーケーブルを取付けて下さい。
- 取付け時は取外しと反対の手順で取付けて下さい。

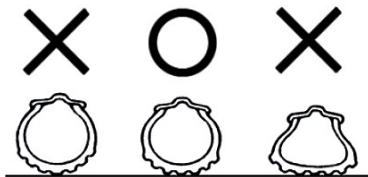
- この車輻には補水不要のメンテナンスフリータイプのバッテリーが装備されています。バッテリー液の補充は不要です。

⚠️ ご注意:

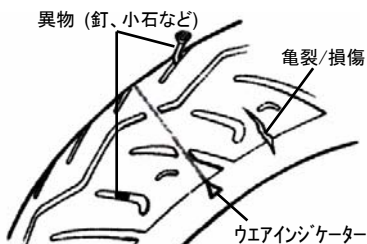
- このバッテリーは密閉タイプのバッテリーです。キャップは絶対に外さないで下さい。
- バッテリーは長期間使用しないしていると、漏電、自己放電で使用不能になります。長期間使用しない場合は車両より取外し、充電後は通風のよい冷暗所で保管する事が望ましいです。車輻に搭載したままの場合はマイナスケーブルを外すようにして下さい。
- バッテリーを交換する時は、メインスイッチを“OFF”にしてから行って下さい。また、交換する時は必ず密封式メンテナンスフリーバッテリーで指定規格のものを使用して下さい。
- エンジン回転中はバッテリー端子を外さないで下さい。電気部品の故障原因となります。

タイヤの点検

- エンジンを止めてからタイヤの点検や空気圧の補充をおこなって下さい。
- タイヤの接地面の形状が異常な時は、エアゲージでチェックのうえ、指定圧まで空気を入れて下さい。
- タイヤ空気圧はエアゲージでタイヤが冷えている状態で測定して下さい。



標準タイヤ空気圧のスペックをご参照下さい



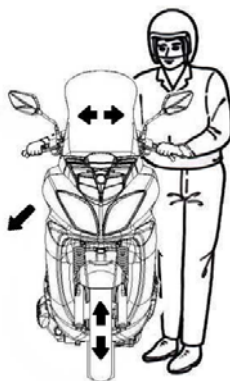
- 亀裂や損傷はタイヤ前面、横面まで確認して下さい。
- タイヤ溝に釘や小石が噛んでいないか確認して下さい。
- タイヤ溝が充分かどうか、ウエアインジケータをチェックしてください。
- スリップサインが出ているタイヤは使用限界ですので、すぐに交換して下さい。

⚠️ ご注意:

- タイヤの異常空気圧、磨耗、亀裂はステアリング操作に影響を及ぼしたり、パンクの原因にもなります。

ステアリングハンドル/フロントショックアブソーバーの点検

- エンジンを止めて、キーを抜いてから点検を行って下さい。
- サスペンションに損傷が無いが目視にて確認して下さい。
- ハンドルを上下に動かして異音や曲がりがないか点検して下さい。
- レンチ等でボルト、ナットの締め具合を点検して下さい。
- ハンドルを上下、左右、前後に揺らしてみ、ガタや異常な抵抗、一方に引っ張れたりしないか点検して下さい。
- ハーネスやワイヤー等によりハンドルが取れないか点検して下さい。
- 万一異常があった場合はSYM 特約店で点検修理をお受けになって下さい。

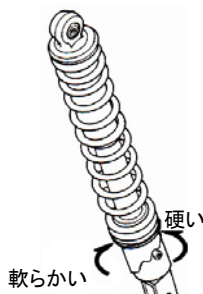


リヤクッション調整

リヤクッションは5段階に調整することができます。出荷時は標準の3段目に設定されています。お客様のお好みにより、調整リングを回す事で調整ができます。

ご注意:

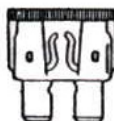
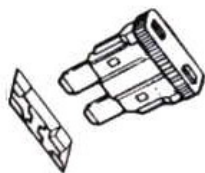
- 左に回すと硬くなり、右に回すと軟らかくなります。
- 車輛の安定性を確保するために、調整する時は左右同じ位置に合わせて下さい。



ヒューズの点検と交換

メインスイッチを"OFF"にしてからヒューズを確認して下さい。ヒューズが切れている場合は同じアンペア数の新しいヒューズに取替えて下さい。指定アンペア数以上のヒューズや銅線、鉄線を代わりに使用する事は配線の過熱や焼損の原因になりますので、絶対にしないで下さい。電気回路システムを破壊する恐れがあります。

- トランクボックスを外すと、テールライトの近くにヒューズボックスがあります。
- ヒューズボックスカバーを開けて、ヒューズを引き抜いて下さい。そしてヒューズが切れていないか確認して下さい。
- ヒューズを交換する時はコネクターにしっかりと差し込んで下さい。接触が緩いと、接触不良や損傷を与える原因になります。
- ライト球のような電気部品を交換する時は規格に合った部品を使用して下さい。交換された部品が規格に合っていないと、ヒューズ切れやバッテリーあがりを起こす恐れがあります。
- 車輛を洗車する時は、ヒューズボックスに水が掛からないように注意して下さい。
- ヒューズを替えてもすぐに切れてしまったり、原因が不明で切れてしまう場合はお買い求めのSYM 特約店に車輛をお持ちいただき、点検してもらって下さい。



切れた状態

方向指示器とホーンの点検

- メインスイッチを"ON"位置にして下さい。
- 方向指示器のスイッチを作動させて前後左右のライトの点滅を確認して下さい。
- 方向指示器のレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい。
- ホーンスイッチを押してホーンが鳴るか確認して下さい。



ご注意:

- 方向指示器ライト球は規格のバルブを使用して下さい。もし異なった規格のバルブを使用すると通常の方法で方向指示器の作動に支障が生じる恐れがあります。
- 後続車に注意を促す為に、方向転換やレーン変更の前には必ず方向指示器を点けて下さい。
- 方向指示器の使用後はただちに解除して下さい。点灯させたままですと、他の車輛に迷惑を与えますのでご注意下さい。

フロント及びリヤライトの点検

- エンジンを始動してヘッドライトとテールライトが点灯しているか確認して下さい。
- ヘッドライトの明るさと方向を壁などに当てて確認して下さい。
- ライトレンズに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい。

ブレーキライトの点検

- メインスイッチを“ON”位置にして前後輪のブレーキレバーを握って、ブレーキライトの点灯を確認して下さい。
- ブレーキライトレンズに汚れ、亀裂、緩みが無いか確認して下さい。

⚠️ ご注意:

- 必ず規定規格のバルブを使用して下さい。もし、異なった規格のバルブを使用すると、電気システムに不具合が生じたり、バルブ焼けやバッテリー放電を起こす恐れがあります。
- 過放電やショートを避けるために、電気回路の改造や、追加をしないで下さい。火災や車輛焼失につながるおそれがあります。

ガソリン漏れの点検

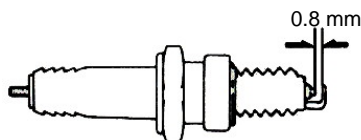
- ガソリンタンク、給油口キャップ、ガソリンホース、キャブレターの漏れを点検して下さい。

車体各部の給脂状態の点検

- 車体の各ピボット部分のグリスが充分か、確認して下さい。
(メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバーなどのピボット部等)

スパークプラグの点検

- プラグキャップを外して、プラグを取外します。(車載ツールキットのプラグレンチを使って外して下さい。)
- 電極の汚れ、カーボンの付着による汚れが無いか確認して下さい。
- 電極のカーボン汚れは金ブラシで磨き、ガソリンでスパークプラグを洗浄して、最後に布で拭取ってよく乾かして下さい。
- 電極すき間を点検してギャップを 0.8 mm に調整して下さい。
(測定はギャップツールを使用して下さい)
- スパークプラグは手で締めた後にレンチでさらに 1/2~3/4 回転締付けて下さい。



⚠️ 警告:

走行後のエンジンは大変熱くなっています。ヤケドをしないように十分に注意して下さい。
※ メーカー推奨のエンジンスペックに適合したスパークプラグを使用して下さい (諸元表参照)

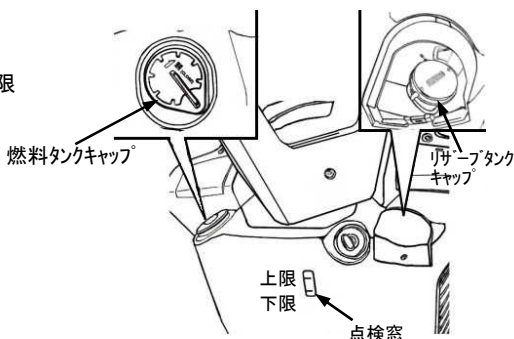
冷却システムの点検

(冷却水点検)

1. 安定した場所にメインスタンドを使用して止めて下さい。
2. 点検窓からリザーブタンクを点検し、クーラントレベルが上限と下限の間にあるかどうか点検して下さい。
3. クーラントが下限レベルに近い時はクーラントを上限まで補充して下さい。

(冷却水の漏れ点検)

- ラジエーターとパイプの漏れを点検して下さい。
- 車輛からクーラントが漏れていないか点検して下さい。



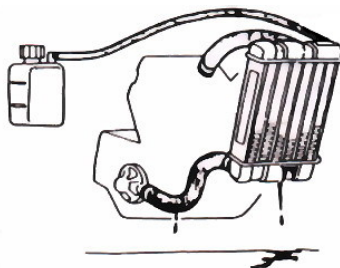
冷却水の補充

ラジエーターキャップはいつもしっかり締めて下さい

1. 水平な場所にメインスタンドで車両を止めて下さい。
 2. リザーブタンクキャップを開ける
 3. 冷却水を上限まで補充して下さい。
- もし、極端に減る場合は異常があるかもしれないのでSYM 特約店で点検して下さい。
 - ラジエーター内部の錆を防ぐために適正濃度で冷却水を定期的に交換して下さい。

濃度: 50%

ラジエーター容量 : メインラジエーター : 780 cc.
リザーブタンク : 420 cc.



⚠️ ご注意:

- クーラントに混合する水は軟水を使用して下さい。
- 低品質のクーラントを使用するとラジエーター寿命が短くなりますので特にご注意下さい。
- 冷却水は1年に一度定期的に交換して下さい。

⚠️ ご注意:

車両が外気温の低い地域(0℃以下)で使用される場合、不凍液の濃度は温度に応じて調整する必要があります。不適切な濃度で使用した場合、凍結により冷却システムを破損させる場合がありますのでご注意下さい

寒冷地での不凍液濃度参照表

凍結温度による適正な不凍液の濃度は以下の通りです:

不凍液濃度	凍結温度	備考
20%	-8	出荷時の車両は濃度 50% になっています
30%	-15	
40%	-24	
50%	-36	

低品質のクーラントは冷却システムのトラブルの原因になります

また、寒冷地での使用ではラジエーター液の交換回数は増やして下さい。

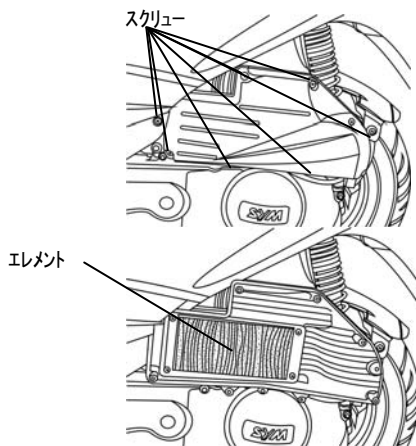
エアクリーナーの点検

《取外し手順》

1. エアクリーナーカバーから取付けスクューを外して下さい。
2. カバーを取外し、エレメントを取り出して下さい。
3. エレメントを清掃して下さい(メンテナンススケジュール参照)

《取付け手順》

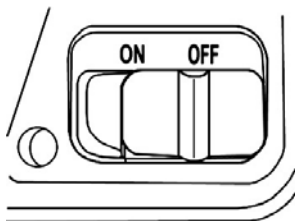
- 取外しの逆手順で取付けをして下さい。




⚠️ ご注意:

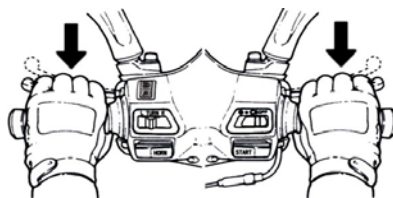
- エアクリーナーが汚れていると出力減少や燃費の悪化を招きます。
- 空気の汚れた道を走行する事が多い場合、通常よりもエアクリーナーを頻繁に清掃または交換して下さい。
- エアクリーナーが正しく装着されていないとゴミやほこりがシリンダー内に吸入され、シリンダーの早期磨耗や出力減少を起こし、エンジン耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けて下さい。
- 車輛を洗車する時はエアクリーナーに水を入れないで下さい。エンジンの始動が出来なくなったり、故障の原因になる恐れがあります。

エンジンが始動しないとき



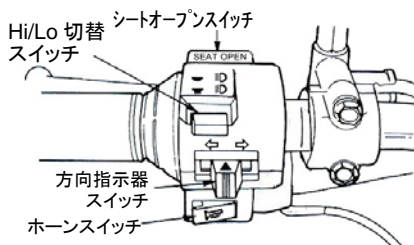
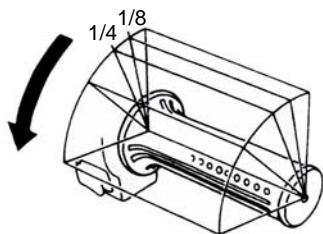
(1). メインスイッチは “ON” の位置にありますか？

(2). エンジンコントロールスイッチは “OFF” or “” の位置にありますか？



(3). ガソリン残量は充分ですか？

(4). セルボタンを押す時に前または後ブレーキをかけていますか？



(5). セルボタンを押しながら、スロットルを回し過ぎていませんか？

(6). メインスイッチを “ON” 位置にしてホーンスイッチを押して下さい。ホーンが鳴らない場合はヒューズが切れているかもしれません。

【上記に該当するところが無く、エンジンが始動しない場合はお買い求めの SYM 特約店にご相談下さい】

14. ガソリンについて

- このスクーターはオクタン価 90 以上の無鉛ガソリンで使用されるように設計されています。
- 高地(気圧が低い所)でこのスクーターを使用する場合は、エンジン性能を最大限に発揮するために電子制御燃料噴射システム内で気圧を検出して使用状況に応じた制御をしてエンジンをコントロールしています。

15. トランスミッションオイル

- 推奨オイル: SYM 純正 HYPOID GEAR OIL (SAE 85W-140)
- 外気温度が 0°C 以下になる地域では SAE85-90 のご使用をお勧めいたします。

16. 運転時のご注意

1. メインスタンドを上げて車輛を起し、シートに座って下さい。
メインスタンドを上げる時は車輛を前に押し出して下さい。

ご注意:

- 始動時にエンジン回転を上げるために無理にスロットルを開けないで下さい。不意に車輛が進み出すと危険です。

2. 車輛の左側から乗車して、車輛を倒さないように足をしっかり地面につけて、正しくシートに座って下さい。

ご注意:

- 始動時はブレーキをしっかりとかけて下さい。

3. スロットルバルブをゆっくり回すと車輛は動き始めます。

ご注意:

- 急激なスロットルバルブの操作は車輛が突然発進し、大変危険です。
- 走行前にサイドスタンドがしっかり戻っているか確認して下さい。

【急ブレーキはかけないで下さい。転倒を引き起こします】

- 急ブレーキと急旋回はスリップや転倒を引き起こします。
- 雨の日のようなスリップしやすい路面での急発進や急ブレーキは、スリップや横滑りを起こし転倒する原因になります。

【雨の日はとくに注意して走行して下さい】

- 雨の日や濡れた路面でのブレーキ制動距離は乾燥した路面と比べて長くなります。スローダウンするか、早めのブレーキ操作をして下さい。
- 下り坂ではエンジンブレーキを併用して安全運転を心がけて下さい

項目	メンテナンス マイル	200mi	600mi	2,000mi	4,000mi	8,000mi	備考	
	メンテナンス キロメートル	300km	1,000k毎	3,000km毎	6,000km毎	12,000km毎		
	点検項目 メンテナンス期間	新車時	1ヵ月毎	3ヵ月毎	6ヵ月毎	1年毎		
1	エアクリナーエレメント(備考)	I		C	R			
2	オイルフィルター(スクリーン)	C			C			
3	エンジンオイル(備考)	R	I	以降 3,000km 毎に交換				
4	タイヤ空気圧	I	I					
5	バッテリー	I	I					
6	スパークプラグ	I		I		R		
7	スロットルボディ(EFI)	I			C			
8	ステムベアリング、ハンドル	I		I				
9	トランスミッションオイル漏れ	I	I					
10	クランクケースオイル漏れ	I	I					
11	トランスミッションオイル	R	以降 5,000km (5ヵ月毎)毎に交換					
12	ドライブベルト/ウエイトローラー				I	R		
13	燃料漏れ	I		I				
14	スロットル操作、ケーブル	I	I					
15	エンジンボルト、ナット	I		I				
16	シリンダーヘッド、シリンダー				I			
17	排気システム/カーボン清掃				I			
18	カムチェーン/点火時期	I		I				
19	バルブクリアランス	I			I			
20	ショックアブソーバー	I			I			
21	フロント/リヤサスペンション	I			I			
22	メイン/サイドスタント	I			I/L			
23	クランクケースブローバイシステム(PCV)	I		I				
24	冷却水	I	I			R		
25	冷却装置	I	I					
26	クラッチウエイト				I			
27	ブレーキシステム/ブレーキパッド	I	I					
28	車体各部ボルト/ナット	I	I					

☆上記メンテナンススケジュールは 1000km 毎を参照ベースとしていますが、どちらか早い時期でメンテナンスを実施して下さい。

※車輛のコンディションをベストな状態に保つためにも SYM 特約店に車輛をお持ちになり、定期的な点検と調整をお受け下さい。

記号: I ~ 点検、清掃、調整 R ~ 交換

C ~ 清掃 (必要に応じて交換) L ~ 給油

備考: 1.ほこり道、環境汚染のひどい地区での使用車両はエアクリナーの清掃交換はより頻繁に行って下さい

2. 総走行距離が多い車両はメンテナンスをより頻繁に行って下さい。

3. 走行距離が標準より少ない場合、高負荷運転(高速道路など)が多い場合、寒冷時の運転が多い場合は 1000km 毎にオイル交換を行って下さい。

モデル 項目 \ スペック	RV 200 i LF18W2-7	RV 125 i LF12W2-7
全長	2,100mm	
全幅	760 mm	
全高	1,390 mm	
ホイールベース	1,440 mm	
重量	156 kg	
エンジン方式	4-ストローク4バルブセラミックコートシリンダー	
燃料	無鉛ガソリン(オクタン価 90 以上)	
冷却方式	水冷	
総排気量	171.2cc	124.5 cc
圧縮比	10:1	10.5:1
最大出力	15 ps / 8,000 rpm	13 ps / 8,500 rpm
最大トルク	1.35 kg-m / 6,500 rpm	1.1 kg-m / 6,500 rpm
始動方式	Electrical starter	Electrical starter
フロントサスペンション	テレスコピック	
リヤサスペンション	ユニットスイング	
クラッチ	遠心クラッチ方式	
変速機構	CVT	
フロントタイヤ	110/90-13 56P	
リヤタイヤ	130/70-12 64L	
ホイール	アルミニウム	
タイヤ空気圧	フロント: 標準 1.75kg/cm ² (25psi), リヤ: 標準 2.25 kg/cm ² (32psi)1人乗車時, 2.5 kg/cm ² (36psi)2人乗車時	
フロントブレーキ	ディスクタイプ (Ø 273 mm)	
リヤブレーキ	ディスクタイプ (Ø 200 mm)	
ヘッドライトバルブ(Hi/Lo)	12V 55W(H11 X2)	
ブレーキライト(テールライト)	12V 5W / 21W	
ライセンスライトバルブ	12V 5W	
方向指示器ライトバルブ	12V 21W	
メーター照明ライトバルブ	12V 1.7W	
エンジンオイル容量	1.0 L (0.8 L 交換時)	
トランスミッションオイル容量	110 cc. (100 cc. 交換時)	
燃料タンク容量	7.6 L	
ヒューズ	20A×2, 15A×3, 10A×1	
スパークプラグ	CR 7E	
バッテリー容量	12V 8Ah (密閉タイプ、メンテナンスフリーバッテリー)	
エアクリナー	ろ紙タイプ	



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。